

佳作

(埼玉県富士見市)

重松 カヅ子

「婚姻届」

同居人68才、頭の異状に気づき脳外科へ行く。

検査の結果、即入院。異状あり、翌日精密検査、手術をすれば治る。薬で治すこともできるが再発すれば、自由がきかなくなる恐れあり、ご家族で相談なさってお返事を、と言われた。

頭の手術、まずお金の心配だ。多額の費用が必要だ。蓄えもなし、まして、この同居人 元の主人。結婚後、数年で遊びだし、好き勝手に人生を送り、何代も続いた家屋敷を処分 30年前に離婚、1人娘と私は京都へ。

どのようにして探し当てたのか、10数年前にヒョッコリと帰ってきた。

大きな手術だ。もし寿命がなくてあの世へ、なんて考えると、借金をしてでも

1人娘の父親だからと、手術をお願いした。

でも憎しみはいつばい、いつばいある。

手術前日『お父さん、婚姻届ですから、この書類に署名して。書けるかな。

届だしてもいいでしょ』

『エーノカ。カンマンのか』

『いいよ、元の籍に入れる。安心して手術を受けて、お金はなんとかなる』
ふるえる手で署名した。

『今から右京区役所へ行つて来るよ』

『タノムワナ』

区役所へ。窓口の女性の方が『この頃は、熟年離婚が多いのですヨ』
書類に目をおし、驚ろいたのでしょう。

夫68才、妻68才 元の鞆に。なんて馬鹿な人生をと思われたのかな。

『マァーいいか、私の人生だ。悔いのないようによろ。』

これが、私から夫への始めての恋文です。